

## 脇本商事の繊維のネタ帳 Vol.121

### 知っておきたい繊維の知識～素材編⑨

こんにちは!

『知っておきたい繊維の知識(素材編)』(ダイゼン株)よりご紹介していきたいと思えます。

#### 【綿の紡績】より

衣料用に使用される一般的な綿の繊維長は24～30mmで、高級品に使用される超長綿では40mm、最長の海島綿でも50mmなので紡績して糸にすることが必要です。

紡績は、

- ①わたの塊をときほし不純物を取り除く
- ②繊維を束ね、引き伸ばすことを繰り返す
- ③引き延ばして糸にし回転力を加えて糸に撚りを与える(精紡)というような工程で行われます。

②の工程のなかで櫛に繊維束を通し、もつれや短い繊維を除去してそろえる操作を「コーミング」といい、それは「コーマ糸」と呼ばれ高級綿糸のことです。コーミングを行わないのはカード糸といいます。

綿の紡績技術は工程の連続化、自動化、高速化による生産性向上が図られ、新しい精紡方式などが開発されています。

技術というのは進化し続けるものですね～!



## facebook情報宅急便!

[www.facebook.com/kkwakimoto](http://www.facebook.com/kkwakimoto)

こんにちは! ポピンです～!

画像にあるのは『スピンドルひも』といっています。

使い方は巾着のひもをイメージすると分かりやすいのですが、そのほかにもエプロンやパーカーひもの衣類用や、ナップザックや紙袋、POPや屋内外の広告を吊るためのひもとして大変よく使われています。

スピンドルひもの素材は、アクリル繊維を使ったものは色見が豊富にあり、堅牢度も高く丈夫です。

触った感じは綿のような感触で柔らかいのが特長です。

組みひもで丸く、見た目に編み目が細かくて高級感があります。

屋内外ののぼりや旗といった吊りひもには、生成の玉巻になったものを使うことが多いです。

素材はスフで、太さは10種類程度から選ぶことができ、見掛けの太さは

約4mm～10mmくらいまであります。

玉巻は1.8kg巻いてあり、ちょっとしたメロン玉くらいの大きさがあるんですー。

このほかにも、レーヨン素材やポリエステル素材のものがあり、仕様用途によって選んでつかえます。

とても使い勝手がよく、万能なひもなんですよ～!



**NET PICKUP!** 博報堂生活総合研究所による生活者の意識調査  
定点調査で回答の変化を観測しています  
生活定点より <https://www.hakuhodo.co.jp/news/newsrelease/83993/>

### 2020年9月の消費意欲指数は?

最新(2020年8月上旬)調査結果  
20～69歳の男女1,500名を  
対象に「来月の消費意欲」を点数化 **46.7%**

前月(8月)より2.8↓ 前年(2019年)より3.0↓

長引くコロナ禍で、消費意欲の低下が続く。  
外出関連を中心に、多くのカテゴリーで消費意向が減退傾向。

ラベルくん [www.label-kun.com](http://www.label-kun.com)

### 「洗濯ラベルのコメント事例集」の情報をリニューアル!!

ラベルくん.comでは洗濯絵表示で伝えきれない情報を伝えるための付記用語と呼ばれるコメントの一例を紹介しています。  
参考にしてみてくださいねー!

<https://www.label-kun.com/labelinfo-comment.php>

【編集人/脇本康裕】

従来は白衣やシャツのような衛生品向けが中心でしたが、需要は徐々に増えていく中で、衛生面の高まりで、手に触れる機会が多い部位を中心に商品の開発が進みそうな気がします。商品開発、用途開発のチャンスです。

繊維メーカーのシキボウでは、抗ウイルス加工を施した生地や不織布の1～6月の生産量が例年の約20倍だったそうです。これまではマスク向けが中心でしたが、タオルやシャツといった生活雑貨やシャツ、作業着向けで採用が決まり、クラブウエアでは、抗ウイルス繊維を家庭用のカーテンや手袋に採用がすすんでいるのだそうです。

編集後記  
抗菌・抗ウイルス材の用途拡大  
素材メーカーの抗菌・抗ウイルス材の生産が増えているようです。新型コロナウイルスへの効果を保証するものではありませんが、これまで想定していなかった分野まで広がりがつづいて、抗菌・抗ウイルス性能の認証機関が対応できないほど検査依頼が急増しているとのこと。

★ **Gadget Star** **ガジェットの星**  
便利な商品をインターネットから探してご紹介するコーナーです!

ガジェット通信より <https://getnews.jp/archives/2689367>

### 織物の技術を取り入れたウェアラブルデバイスを米大学が開発

アメリカのコネル大学の研究チームは、伝統的な織物技術と最先端の技術を組み合わせたウェアラブルデバイスを開発した。

#### 職人の手作業の織物技術を導入

これまでに開発されてきたウェアラブルデバイスは、最先端のデジタルテクノロジーの技術を取り入れている一方で、見た目はどちらかというと無機質でファッション性の高いデザインのものを目にする機会はほとんどなかった。同研究チームのCindy Hsin-Liu Kao助教は、そうした状況に疑問を抱いていた研究者の一人。そういった背景もあり、今回、見た目も美しい今回のウェアラブルデバイスの開発に至ったという。



同デバイスの開発に至る研究結果は、7月にオンラインで開催された国際会議「ACM Designing Interactive Systems (DIS) 2020」の場でもすでに発表されている。

#### 京都の織物からもインスパイア

Cindy Hsin-Liu Kao助教は、同ウェアラブルデバイスを開発するために、さまざまなテキスタイルアーティストや工房を訪問。その過程では、京都の西陣織のワークショップにも参加したといっている。その経験も同デバイスの開発に生かされているとのこと。

デバイスは、タペストリーを作る際の技法などが取り入れられ、熱やタッチセンサーに反応し変色するオンスキンデバイスになっている。

また、研究チームは、今後のステップとして小学生でも自分でデバイスを自作できるツールキットを開発することだとすでに発表しており、誰もが自身でウェアラブルデバイスを制作できる環境作りに取り組み意志を明らかにしている。

※文章: ガジェット通信より抜粋